

多摩市立図書館本館再構築基本構想
(原案)

平成28年度

提言 基本構想策定委員会

多摩市教育委員会
多摩市立図書館

昭和48年（1973）開館に始まる多摩市立図書館は、自動車図書館やまぼと号を市内20か所のサービスポイントに巡回させて、全市全域奉仕の方針を明らかにしながら、その図書館システムを成長させました。諏訪、東寺方、豊ヶ丘、関戸、聖ヶ丘、永山、唐木田と順々に生まれた図書館は、本館を頂点とした組織体の下位の分館としてではなく、それぞれの地域の暮らしに向き合った地域図書館であり、それらの連帯の形が多摩市立図書館そのものであったといえるでしょう。

平成2年（1990）に「（仮称）多摩市立中央図書館基礎調査」の研究があります。開館17年、理念的な図書館システムの青年期を経て、状況の課題や成長の方向性を考えたときに、全体を力強く支え動かす中枢機能と市民の高まる要求に応える専門性をそなえた中央図書館の必要性が提言されたのです。図書館政策で一歩先を行く国内や外国の都市の図書館が、選択して実績を証明している施策の方向性でもありました。

以後、多摩市は具体化の方策を模索し、市民グループも図書館との奉仕協力に加えて研究会や市民的共感づくりに取り組みますが、人口減少や高齢化や地方自治財政の縮小など成長管理型社会への移行が、時代状況の中心課題となり施策が足踏みします。国が推奨する都市政策の方向性もあり、平成25年（2013）多摩市は「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を市民に示しました。近い将来の公共施設建て替え更新にはじまる財政負担の危機を予測し、持続可能なまちづくりを行政と議会が研究議論したビジョンの市民への提示でした。ここに、図書館本館の再整備と地域館の削減が提示されます。これは施設削減を越えて、これまでの図書館政策の理念の変更や身近な暮らしを支える施策の後退と見えて、各地の多くの市民が異議を表明し、運動を展開しています。40年の多摩市の図書館の歴史を振り返ると、図書館サービスをおだやかに享受する幸いな情景がありましたが、それぞれの地域館に利用者友の会が生まれるなどの地域図書館と市民が向き合い支えあう運営の常態は育ちませんでした。しかし記録をさかのぼれば、当初、多摩市立図書館が掲げた理想は、現代の図書館の3原則に加えて「自律した市民の存在」でありました。この度の図書館奉仕に関わる行政と市民が重ねた議論や思いは、根源的理想を確かめる出来事とも思われます。

※現代の図書館の3原則
・図書の貸出奉仕の重視
・子どもサービスの重視
・全市全域サービス重視

平成28年（2016）7月、いくつかの社会状況の変化や多様な市民意見の反映もあり、多摩市は「公共施設の見直しと将来像（行動プログラムの見直し）」を提示します。当面は現状地域館を存続し、本館再整備など多摩市の図書館全体像を市民とともに考えてゆこうという提案です。さて、前述の社会状況の変化とは以下の4点です。

- ・H25秋. 市財政の展望をふまえた「行動プログラム案」の分館縮減案に大きな市民反響と行動。
- ・H26夏. 都市計画税の用途を緩和する法改正により、市財政計画の前提と展望に状況変化。
- ・H27秋. 鶴牧倉庫跡地整備案の進捗困難な状況に、優良条件の適地の取得可能性が生まれた。
- ・H28春. 多摩センター地区の、中央公園、パルテノン多摩、図書館新本館（中央館）を連携する再整備の方針が公表され、それぞれの検討が始まる。

※新たな敷地に再整備された新本館を、多摩市立中央図書館と呼ぶことも考えられます。

本調査「多摩市立図書館本館再構築基本構想」は、図書館に関わる市民団体や施策につながる行政部局へのヒアリングを基礎資料として、7回の策定委員会での協議を整理編成するかたちで提言としてまとめられています。また、議論と編成の進め方については、以下の3つの原則をふまえたものとなっています。

- H23「多摩市立図書館の基本方針・運営方針について」とH28「多摩市読書活動振興計画」を「本館再構築基本構想の基盤」として策定委員会は議論する。
- H22図書館協議会「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」を「本館再構築基本構想の骨格」として策定委員会は議論する。
- 「市政世論調査や各種アンケート」「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に係る市民説明会やパブリックコメント」「グループヒアリング」など、これまでの図書館政策への市民意見をふまえ、素案への意見も積み重ねて、基本構想素案を策定委員会は議論する。

構想検討の終盤に基本構想原案は、市民フォーラムやパブリックコメントなど広報公聴を経て、策定委員会で再調整され構想提言となります。多摩市立図書館の将来像に、本構想が市民的共感を得て、図書館システムの成長に資することを目的とします。

はじめに

構想立案の経緯	0-02
・本館再構築基本構想までの経緯／基本構想議論の3つの方針	

序 章 「知の地域創造」のために	0-04
------------------	------

第一章 多摩市民の図書館のいま	1-01
1-1. 多摩市のいまと図書館政策	1-02
1-2. 多摩市の図書館サービスの現状	1-04
1-3. 多摩市の図書館サービスの課題 （現況と課題チャート）	1-06 1-08
1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯	1-10

第二章 多摩市民のめざす図書館	2-01
2-1. 「知の地域創造」のための図書館 （基本方針と5つの運営方針）	2-02
2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館	2-04
2-3. 多摩N.T. 再生まちづくりの担い手となる図書館	2-06
2-4. あたらしい多摩市立図書館への提言 （提言チャート）	2-08 2-09

第三章 多摩市民を支える中央図書館	3-01
3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに	3-02
3-2. 中心地区につながる開かれた中央図書館	3-04
3-3. 基本的図書館サービスと新しいサービス	3-06
3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを	3-08

第四章 中央図書館づくりの進め方	4-01
4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点	4-02
4-2. 資料世界構築と開架の配架表現	4-03
4-3. 大切な図書館員の専門性と組織づくり	4-04
4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり	4-05

策定委員会の経緯と構成	5-02
おわりに	5-04

別冊 資料編 基本構想策定の経緯と記録	
（1）策定委員会要点録	
（2）策定委員会の協議検討資料	
（3）関係団体等とのヒアリング記録	
（4）基本構想原案の広報公聴の記録	

別冊 基本構想概要版	
------------	--

序章 「知の地域創造」のために

(1) 「知の地域創造」センターの構想

多摩中央公園に生まれた「知の地域創造」センターでは、晴れた日にはテーブルと椅子があちこちに置かれ、木陰でカフェを楽しみながら本を読んだり、おしゃべりを楽しんでいます。公園の大池に面した「大芝生広場」では、家族連れがまだ暗い時間からテントを張り、周りの樹の根元で懐中電灯を手にして、セミの羽化を観察しています。観察が終わると創造センターの机で、自由研究のまとめです。

朝の時間帯は、2階でお年寄りが新聞を読む静かなスペースから、公園の向こう側にパルテノン多摩の円柱が望めます。パルテノン多摩の公園側にも、図書館員が選んだ本が配置され、定期的に入れ替えがされています。そこから創造センターまでの道すがら、ところどころで文化財や本の展示が楽しめます。

創造センターの公園側は、公園に溶け込んだデザインで、人々が自由に出入りしています。入り口から入ると、広いギャラリースペースには、古民家と呼応するように縄文土器に活けられた花などの文化財展示や、市民の写真作品が並んでいて、市民のひろばになっています。

このギャラリーは、週に1度は、若者向けのライブスペースに早変わり。パルテノン多摩のサブステージとして親しまれ、デジタルサイネージの画面には、パルテノン多摩のイベントが映し出されています。

午前中からベビーカーを押す親子連れが、にぎやかな1階のフロアに集まり始めました。これからどこにでかけ、どこでランチにするか、本やインターネットで調べています。

午後になると、保育園児がおはなし室にやってきて、本のよみかかせをしてもらっています。障がいのある子どもも、マルチメディアの絵本や布の絵本を大きな声を出して楽しみ、集中しています。

夕方、取引先を回ったビジネスマンがパソコンを使って判例関係のデータベースで調べ物をしています。

学校帰りの学生も、みんなで話し合っまとめをしていましたが、今は気分転換に、マルチメディアブースで多摩市を舞台にしたアニメを楽しんでいます。

あたりが暗くなると、ぼんぼりのように、創造センターが遠くからでも浮かび上がり、そこに行けばだれでも受け入れ、何か見つかるような気がします。

この創造センターに集まる人々は、様々な活動を目にして、本やインターネットで調べ、仲間になったり、教えたり、触発されることで、グループでも、あるいはひとりひとり個室に閉じこもったままでも、「知の地域創造」の一員になっています。この公園を囲む一帯には、心を豊かにしてくれる仕掛けがあふれています。

ひとつひとつのサービスは、海外の図書館や日本の先進的な図書館では、既に実現しているものが少なくないでしょう。でも、多摩中央公園のような広い緑と開かれた青い空の下にそれらを集中させ、様々な文化や芸術を楽しめる「知の地域創造」センターは、他にあるでしょうか。

(2) 多摩センターという「知の地域創造」の舞台

昭和46年に多摩ニュータウン一次入居が開始され、京王線、小田急線、多摩都市モノレールが開通。複合した都市機能を有する商業・業務の多摩ニュータウンにおける中心地として、「多摩センター」と名付けられました。

そして、視点をずらすと「多摩センター」は、パルテノン多摩に縁取られた多摩中央公園ができたことで、公園を中心とした生活・文化・芸術の拠点としても生まれ変わり、今日に至っています。

わが国の高度成長期を乗り越えてきた多摩ニュータウンは今、少子化、高齢化の波の中で、経済面でも生活環境の面でも再生に取り組みなければならない時期を迎えています。そのような時代の転換点の中で、多摩市の文化・芸術の中心となってきた多摩センターも、旧来の図書館の枠を超えた「知の資源を集積したセンター」としての新たな図書館を中核に据えることで、「知の地域創造」の拠点として変貌させるならば、「のびやかに生きられるまち」「誇れる故郷のまち」のシンボルとさえなります。冒頭に掲げた将来像は、今すぐには、すべてを一挙に実現できなくても、新たなニーズに支えられて、行政と市民が二人三脚ですすめることで、今と将来の多摩市民の「知の資源」が耕されて、他には類を見ない心の豊かなまちづくりの道しるべとなるでしょう。

(3) 「知の地域創造」のビジョンに一步近付くために

この策定委員会では、単に中央図書館の機能を検討するのではなく、図書館ネットワーク全体をまず考えることとし、検討を進めました。

その過程では、ヒアリングによる、市民や図書館員、行政などの様々な意見があり、これまでのアンケートの結果があり、各委員からの提言や議論がありました。そして、「若者」「子どもの空間」「子どもの心の発達」「ベビーカー」「絵本」「障がい者とバリアフリー」「お年寄りの心の拠り所」「コミック・アニメなどの新しい表現ジャンル」「インターネット」「公園との一体化」「文化財」「古民家を活かす」「新しい図書館像」などのことばがつむぎ出され、新しい中央図書館のイメージが膨らんでいきました。

その中で、今の図書館ができないことや、図書館の外（そと）にあるものと「連携」するのではなく、さらに視座を1段高くしてそれらを包含して考えること、これまでの図書館のイメージからはみ出した、公園やパルテノン多摩、近隣の大学に囲まれた環境や、アニメやインターネットも含めたメディア、これまでに利用していない市民への配慮などへと広げたいと、「知の地域創造」センターとして、さらに「のびしろ」を広くとって考えるべきだとの提言がありました。

「『知の地域創造』センター」。それは今の段階では必ずしも全体像を漏れなく描くことは困難ですが、大切なことは、可能な限り希望に満ちたビジョンを描き出すことでしょう。もちろん、10年後、20年後、30年後には、子どもたちや若者のニーズのシャワーを浴びて、今は想像できないような形に変容していくことと思います。

今この基本構想でイメージを描けるのは、そのセンターの核となる、中央図書館のビジョンです。この基本構想では、将来を希望をこめて大胆に構想しつつ、第一章からの四つの章で、多摩市の図書館ネットワーク全体から、中央図書館の機能へ、そして今後の基本計画という現実の施策へと、フォーカスを絞っていくこととします。

第一章 多摩市民の図書館のいま

- 1-1. 多摩市のいまと図書館政策
- 1-2. 多摩市の図書館サービスの現状
- 1-3. 多摩市の図書館サービスの課題
- 1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯

1-1. 多摩市のいまと図書館政策

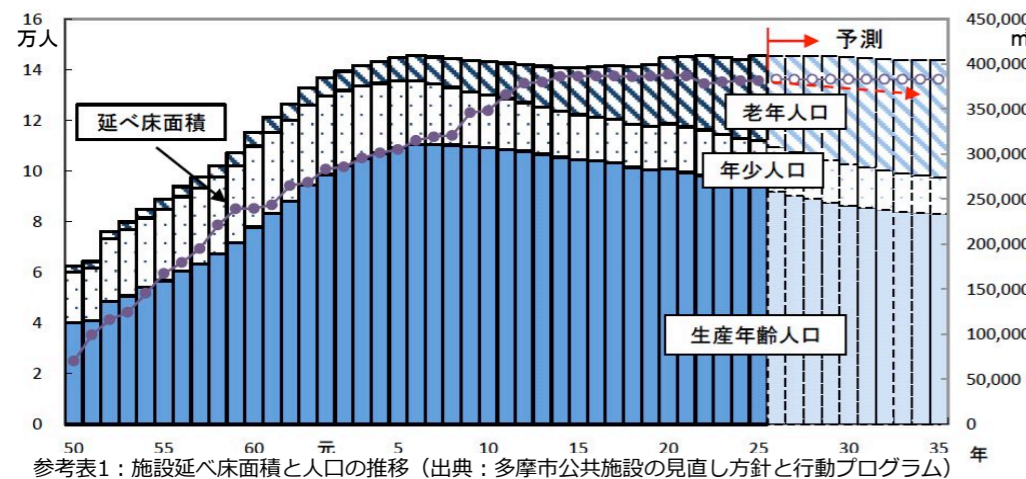
(1) 多摩市の都市環境と15万都市コミュニティの魅力

平成28年の今、各種既往統計調査から多摩市の地域社会を下のように俯瞰します。

- ・昭和40年代から開発された多摩ニュータウン区域は市域の6割を占めて、多摩市は成長し、そのコミュニティは平成2年頃には14万人都市となっています。
- ・平成に入り四半世紀の人口はほぼ横ばいの微増減状態ですが、平成14年のボトム14万人から、平成28年の14.8万人に、団地の建替え更新もあり社会増がみえます。
- ・世代構成では平成に入り生産年齢が減少、年少人口は微減、老年人口は1.5倍増となっているが、団地建替えで世帯増や若い世代の誘導など新施策が進みます。
- ・順次団地を建替え更新する期間の人口の社会増減はありつつも、住環境の魅力と四半世紀のトレンドで俯瞰すると、近将来の多摩市を15万人都市と想像できます。
- ・暮らしを支える社会施設は、団地開発にともなう公共施設整備で整えられて、既成市街地の行政に比べ大きな負担はなくその後の公共施設拡充が進んでいます。
- ・過疎化高齢化と地方自治縮小に直面する地方他都市とは様相が違うが、行政規模調整、税収財政の縮小、40年を経た公共施設の建替え負担、など全国共通の行財政改革が表明され、住民サービス低下の賛否と対立して官民議論が争鳴しました。
- ・非住居系用途の変化としては、40年代計画の児童発生率が沈静し学校減と種地化、災害に強い地勢から大学やIT関連業種の立地集積など別の成長性を予感させます。

※多摩ニュータウン再生の団地建替えが進んでいる。人口や年齢構成に関わる戸数増や若い世帯の移入を促すため、暮らしやすく魅力的な多摩市の自己表現も求められる。

※在住市民が評価している多摩市行政サービスの筆頭に図書館があげられる。市民の要求に応えられる現状図書館再構築整備も次の時代の社会インフラとして多摩市民を支える。



(2) 第五次総合計画の時代に・・・都市施設の更新と財政計画の見直し

平成25年「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の状況認識と、平成28年更新表明と各地での状況説明では、大きな状況認識の変化がありました。

- ・都下26市比較で市民1人当たりの公共資産額（将来の更新維持の負担）は1位です。前述の都市形成時の順調な公共施設整備は建替え更新時の負担規模につながります。
- ・大局的かつ長期的に行財政と公共サービスの点検と適正規模化が必要とされました。自治財政支出の大きな割合が行政サービスの人件費であり常に点検改革が必要です。
- ・少子高齢化と住民税の減収傾向は、大規模改修施設面積が全体の77%となる平成35年に行政対応がゆきづまる、などが、行政と議会の研究から観測されていました。
- ・平成25年策定後の下記の4つの環境変化によって、近将来にはパルテノン多摩、エコプラザ多摩、中央公園、図書館新本館整備、市役所の整備事業が予定されます。
 - 多摩N.T.再生方針(H28)と団地建替え更新と子育て世代の流入促進。学校跡地活用。
 - 都市計画税（市税収入の6%）の用途への規制緩和(H26)が財政予測を変えました。
 - 「健康都市・多摩の創造」の旗印のもと既存公共施設の機能複合化や転換の方針。
 - 行動プログラムに対する陳情、地域施設存続要望を大規模改修する時期まで再検討。
- ・図書館の施設では、4つの地域館が廃止され、2つの拠点館と本館再整備(行政資料室機能存続)の体制に集約する方針が撤回され、当面施設数は存続し検討されます。
- ・全体図書館システムのありようと本館再整備(新中央館)方針については、図書館サービスの施策が重要であり、基本構想策定と以降の計画にゆだねるとしました。

※平成23年第五次総合計画は、少子高齢化と人口縮小による地方自治行財政の縮小化予測に対応したコンパクトシティの理念がその基礎に想像される。

※多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム～少子化・超高齢化社会に向けた持続可能なまちづくりのために～平成25年11月 多摩市

※多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム～少子化・超高齢化社会に向けた持続可能なまちづくりのために～更新案(総論)(各論)同 地域説明会資料平成28年9月更新予定 多摩市

※図書館計画は「ものの計画」よりも「こと」の計画が先行する。また、「どうつくるか」よりも「なぜつくるか」が先行されるべきです。

(3) 行財政運営からみた図書館政策とマネジメントへこれまでの指摘

昭和48年開館以降、多摩市民の暮らしを支える図書館サービスをめざした活動で、貸出やリクエスト対応の高い実績を多摩市立図書館は続けています。しかしながら、多摩市読書活動振興計画には、図書館運営側から見た図書館が抱える7つの課題が整理されていますし、市行政と多摩市議会からは、教育委員会に対して、以下のような「図書館の運営に対する指摘」があることが記載されています。

※多摩市読書活動振興計画～市民の読書活動を支える取り組みと土台となる図書館の運営について～平成28年5月 多摩市教育委員会

- ・平成23年4月の唐木田図書館開館に際しては、窓口業務委託を採用した。図書館の機能、運営方法等全般についての抜本的見直しが必要。今後の図書館運営についての考え方を示すよう求める。

※多摩市立図書館の7つの課題については、後段の整理による。

多摩市議会からは、以下の4点の評価があります。

- ・平成23年度決算における事務事業評価において、現状維持による図書館行政の発展向上が考えにくいことの検討を要する。
- ・公共施設総量見直しの視点から、全図書館で同一均質のサービスを提供することについても検討を要する。
- ・「目指すべき図書館像」を明らかにし、具体的処方箋を描くべきこと。
- ・財源のみでなく人的資源も先細りの現実を直視し、公立図書館の質向上につながる最適サイズを考えるべきこと。

※多摩市立図書館の7つの課題については、後段の整理による。

平成28年、図書館運営の基本方針は直営がのぞましいと市長発言がありました。これらもふまえて、今後、図書館運営の課題の解決策や体制再編の研究が、財政計画や人事計画との調整を含めて組み立てられることでしょう。研究は、本館再整備と立ち上げ期間の計画と、多摩市の図書館システム体制の経常的計画を意味します。

※多摩市立図書館の運営は直営でゆくとという市の方針の正式な機関決定は、現状ではされていません。

(4) 総合計画に位置づけられてきた暮らしを支える多摩市の図書館政策

多摩市の都市政策では、これまで、図書館政策が重視されてきました。そして図書館をサービスの仕組みとしてとらえ、全域のサービスネットワークについても確にその方針が述べられてきました。それは市民と行政の共通の図書館観と言えるでしょう。市民はそのように図書館を理解し、行政も政策を手段としてではなく理念として、近年まで理解されてきたことが以下に読み取ることができます。

※平成27年度多摩市の一般会計に占める図書館歳費は1.16%、6.3億円です。この比率は多摩市が図書館政策を重視している証として内外から評価されてよいところです。

※他方、図書館歳費に占める人件費率は74%と上昇傾向で、結果として年間資料費は圧縮され図書館の魅力化に十分な政策投資が活かされていません。この度の本館再構築は全体の図書館経営を見直し、多摩市全体の図書館を活性化するための取り組みと位置づけられるでしょう。他市との比較などふまえ改革の研究が望まれます。

- 平成3年～「第三次多摩市総合計画 基本計画」
- 平成8年～「第三次多摩市総合計画 21世紀に向かう新たなまちづくり」
- ・図書館ネットワークの整備： 中央図書館と地区図書館それぞれが機能を補完する有機的な図書館網の構築に努めます。また、市内公共施設、都立図書館、国会図書館、他市の図書館および大学とも連携してネットワーク化に努めます。
- ・中央図書館の建設： 市民の自発的な学習を資料面から支える中心施設として多摩センター駅周辺地区に中央図書館を建設します。
- ・地区図書館の建設： 市内のどの地域に住む住民も、図書館を身近に利用できるよう地区図書館を建設します。
- 平成13年～「第四次多摩市総合計画 基本計画」
- ・図書館ネットワークの充実：(省略)
- ・地域図書館の整備： 市民が身近に図書館サービスを利用できる地域図書館として「(仮)唐木田図書館」を建設します。
- ・中央図書館機能の整備： 市民の学習を支える基幹的な役割を持つ図書館については、従来の身近な図書館サービスの充実に加え、高度化、多様化する市民の要求に応えるために、図書館ネットワークの中心的機能、増大する資料を整理・保管する図書館資料センター機能および資料や情報の収集・提供・調査・研究などの市民の学習を支える機能などを有する中央図書館機能の整備に着手します。また、既設の地域図書館との図書館サービスの役割分担や運営について見直しを図ります。
- 平成23年～「第五次多摩市総合計画 基本計画」
- 平成27年～「第五次多摩市総合計画 第2期基本計画」
- ・学習環境の整備：「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の実現を図りつつ、時代に合った学習情報環境を整備することにより、多様な価値観の中で、市民が必要な情報を得られるようにする為、図書館のあり方について分散型から集約型に向けた検討を進めます。あわせて地域での図書館サービスに関する市民活動を進めます。

※平成3年～第三次総合計画の図書館政策の記述。

※平成13年～第四次総合計画の図書館政策の記述。

※平成27年～第五次総合計画の図書館政策の記述。

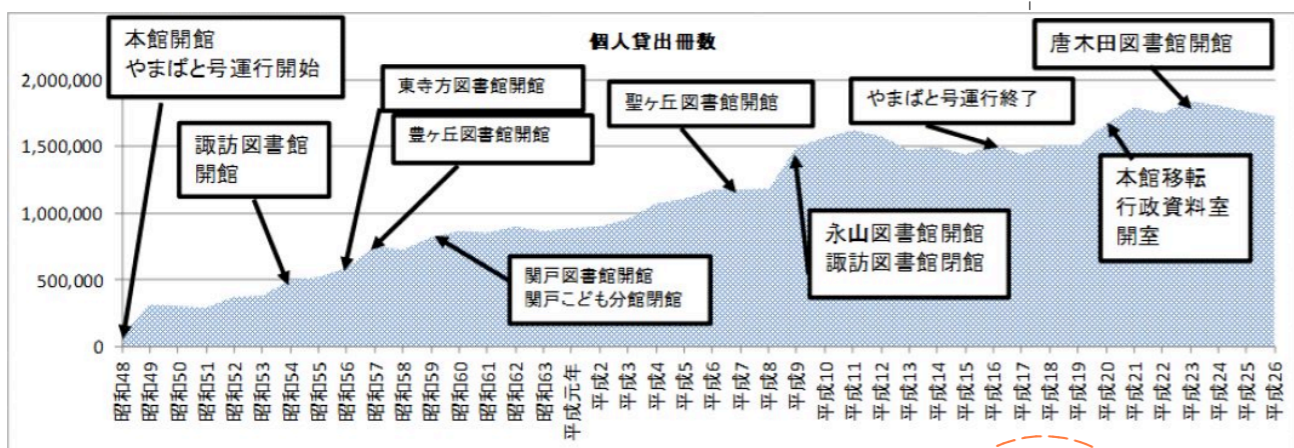
※分散型から集約型へ図書館が向かうとある。

1-2. 多摩市の図書館サービスの現状

(1) 多摩市立図書館の成長とサービスシステム

- 昭和48年開館から43年を経た多摩市立図書館は、年間に68万人市民の173万冊貸出と47万件リクエストに応える図書館サービスシステムに成長しました。これは全国同規模自治体中で、個人貸出冊数が第二位、予約受付件数が第一位の利用実績です。

※下表の典拠：読書活動振興計画 H28年5月 多摩市教育委員会

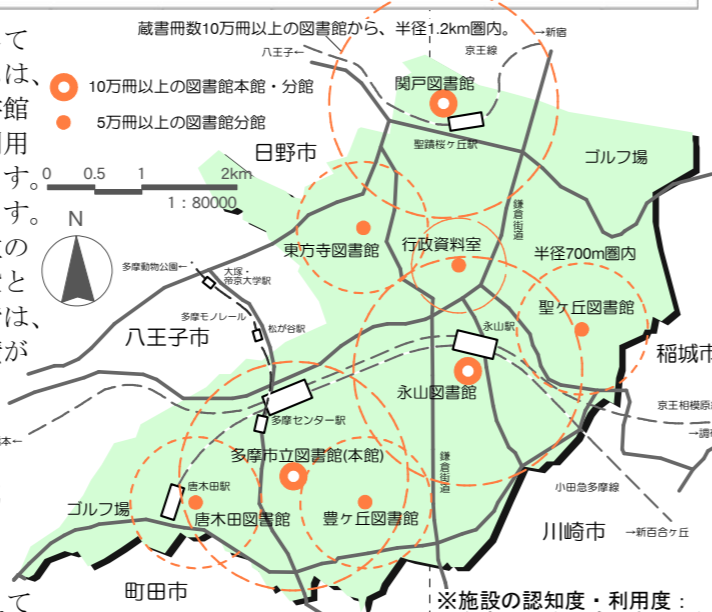


- ・全市全域サービスを多摩市立図書館の理念として自動車図書館巡回から始まったサービスシステムは、市内7館1分室の図書館施設群と本市の学校図書館をネットワークし、近隣七市の図書館とも相互利用でつながり、市民の支持を得て成長を続けています。
- ・市民から見た図書館について各種調査があります。図書館の認知度は二位の89.9%、利用経験は三位の67.9%、年間利用回数で一位、よく利用する施設としても図書館が一位でした。平成26年度の統計では、人口に対する登録者は41.3%、一年間に貸出実績がある利用者は、人口に対して21.2%でした。*

(2) 多摩市立図書館を構成する施設群

- ・多摩市立図書館というサービスシステムを構成する、7館1分室の図書館施設群の環境と活動の概要です。

- ・この図書館システムの成長にとって課題を抱えている本館の再構築が計画されるとき、下表に総括された資料群と人的なストックをベースに、活動が分析され合理的な再編研究が必要です。併行的に、今後検討が始まる拠点館と地域館の将来像についても、専門性を堅持しつつ地域の要望に応え充実して、持続性のある方策を全体資源の再編と調整するために、利用者とともに、さらなる研究が必要です。



※施設の認知度・利用率：
・多摩市市政世論調査H25年
・公共施設の適正配置に関するアンケートH24年
・公共施設の見直しについてのアンケートH27年より

(下表典拠：H26年度・日本の図書館統計と名簿2015より)

統計 (H26年度)	本館	永山拠点館	関戸拠点館	東寺方地域館	豊ヶ丘地域館	聖ヶ丘地域館	唐木田地域館	行政資料室
床面積施設型	5,480㎡ +1480㎡ S48築/H20移転 旧校舎/単独施設	984㎡ +共用部 H9築 公民館複合施設	1,045㎡ S59築32年 商業複合施設内	551㎡ S56築35年 福祉複合施設	508㎡ S57築34年 福祉複合施設	842㎡ H7築21年 公共複合施設	577㎡ H23築5年 公共複合施設	100㎡ H20築8年 市役所庁舎内
資料数	蔵書34.8万冊 開架11.1万冊 45.6%	開架10.9万冊 14.3%	開架10.1万冊 13.2%	開架4.2万冊 5.5%	開架5.8万冊 7.6%	開架4.9万冊 6.4%	開架4.6万冊 6.0%	開架1.0万冊 1.3%
貸出冊数 172.5万冊 (H26年度)	年間38.9万冊 22.6%	年間48.8万冊 28.3%	年間35.3万冊 20.5%	年間9.2万冊 5.3%	年間16.4万冊 9.5%	年間10.7万冊 6.2%	年間12.7万冊 7.4%	年間0.5万冊 0.3%
貸出人数 67.6万人 19.9% リクエスト数 (H26年度)	年間13.5万人 19.9%	年間20.8万人 30.7%	年間14.8万人 21.8%	年間3.3万人 4.8%	年間6.2万人 9.1%	年間4.1万人 6.1%	年間4.9万人 7.2%	年間0.25万人 0.4%
職員総数	41人	20人	17人	5人	8人	6人	9人	3人
雇用構成	常勤25.嘱託等16. 0.95万冊/年・職員	常勤6.嘱託等14. 2.44万冊/年・職員	常勤6.嘱託等11. 2.08万冊/年・職員	常勤0.嘱託等5. 1.84万冊/年・職員	常勤2.嘱託等6. 2.05万冊/年・職員	常勤2.嘱託等4. 1.78万冊/年・職員	業務委託9. 1.41万冊/年・職員	常勤3. 0.17万冊/年・職員
貸出密度	月～金:9:30-18:00 土 日:9:30-17:00 年末年始以外 休館日 第1木曜/祝・休日	月～金:9:30-19:30 土 日:9:30-17:00 毎週木曜	月～金:10:00-19:30 土 日:10:00-17:00 毎週木曜	月～金:10:00-17:00 土 日:10:00-17:00 毎週木曜/祝・休日	月～金:10:00-18:00 土 日:10:00-17:00 毎週木曜/祝・休日	月～金:10:00-18:00 土 日:10:00-17:00 毎週木曜/祝・休日	月～金:10:00-18:00 土 日:10:00-17:00 毎週月曜/祝・休日	月～金:8:30-17:00 毎週土日と 祝・休日休館

(3) 市民の利用の状況と特色

- ・近年の利用状況では、本館、関戸、永山の3館で全体の約70%を占めています。
- ・多摩市民は、図書館の規模・役割・特色に応じて、使い分けをしています。
- ・図書館全体の選書や目録への登録、リクエストや協力貸出のとりまとめなどバックヤード機能を担う「本館」には、企画相談や講座や調べ物や滞在型利用で使います。
- ・通勤通学や買い物などの便がよい駅前の関戸、永山分館は「駅前拠点館」と呼ばれ資料の多さと夜間や休日開館もあることから、多くの利用者が集中しています。
- ・子どもや年配者は、歩いてゆける「地域館」を日常的に使っています。蔵書が5万冊程度でその本も返却館に止まるので、リクエストに頼り本を取り寄せる方式です。
- ・永山は障がい者支援の拠点であり、関戸には活動室があり、いくつかの館で文庫のお話ボランティア活動があります。また、お話コーナーだけでお話しがありません。
- ・新聞雑誌コーナーはどれも点数が多くなく、くつろぐ居場所が望まれています。
- ・地域資料や調べ物の要望が多いが本館でも十分でなく、要求の質が高まっています。

(4) 構築された資料群とその表現、管理システムの状況

- ・図書館システム全体で、蔵書冊数76.3万冊、開架資料52.6万冊、閉架資料23.7万冊。
- ・館数が多く年間の購入資料費が少ない。複本を購入できないので構成的な資料配架や関係化された魅力的棚づくりや表現が、目標化されていない状況もうかがえます。
- ・リクエストに応える選書構築や、返却された館に資料が動くシステムで、図書館ならではの構造化された資料世界表現を目指すことが難しい開架室の印象があります。
- ・開架規模10万冊の本館と2拠点館、5万冊規模地域館の、全体規模に対応した資料の構造化、つながり、奥行きなど、開架室の表現に新味と意図が見え難いようです。
- ・閉架書庫と団体貸出室は10年暫定利用の本館上階にあるが、荷重や空調が課題です。
- ・平成18年導入の図書館資料管理システムは、7図書館1室と27学校図書館を結んで、市域全体蔵書の一元管理、所蔵情報と資料利用の共有化ができています。利用者はインターネットで、蔵書検索、予約、利用照会（貸出予約・状況確認）ができます。通信連絡も同システムのメールが活用されて、業務の効率化が進んでいます。

※他市の図書館でも近年その取組みが試行されているが、本館分館ともに、魅力的な開架室づくりが求められている。それぞれの館の収容力や全体の役割分担などの全体再編をふまえた再構築が今後必要になるだろう。

(5) 図書館員の体制

- ・図書館群全体で職員総数は109人。常勤/再任用/再雇用44人、嘱託56人、委託9人。
- ・常勤44人（司書有資格23人）：総務係・企画運営係・地域資料係・サービス係・子ども読書支援係・その他 分館を担当。）
- ・平成7年聖ヶ丘図書館開館時から嘱託職員(全員司書)制度を導入、常勤と嘱託の他、非常勤一般職(年間1500時間を1人日で換算)が窓口など補完的業務を行っています。
- ・平成22年から東寺方図書館で、平日に嘱託職員が運営する方法を試行しています。
- ・平成23年唐木田図書館開館から兼務館長は常勤、窓口業務は委託を試行しています。
- ・職員人件費の抑制と、専門性を維持育成する職員配置の両立が課題です。

(6) 開館時間や力をいれているサービス

- ・全域サービス体制を維持し開館時間延長や休館日の拠点館開館など改善しています。
- ・児童サービスを重視して、子ども読書支援係という担当を置いています。
- ・障がい者サービスでは、来館困難な利用者に希望図書宅配サービスをしています。
- ・京王線沿線七市が18項目の広域連携をして図書館サービスの相互利用をしています。

※平成18年に多摩市子どもの読書活動推進計画を策定。平成24～28年第二次計画の途中。図書館、市民ボランティア、行政窓口、小中学校、と推進している。その中で、お話しや読み聞かせ活動があると聞きます。

(7) 学校図書館の状況と公共図書館の後方支援

- ・全ての小中学校に学校司書が配置され、平成18年から公共図書館システムと学校図書館が連動し、共通書誌化でインターネット検索や予約の資料世界が広がりました。
- ・公共図書館は、学校連絡会で相互連絡、図書館間の物流支援、調べや朝読資料提供、推薦ブックリスト、専用団体貸出カード、データ登録装束代行、研修会、図書館に小2学級招待、中学生職場体験受入れ、子ども読書まつりなど連携支援しています。
- ・学校図書館の取組みは早かったが、資料費が少なく地域格差が残る課題もあります。
- ・多摩市小中学校の生徒児童の図書貸出状況には未だ大きな伸びしろがありそうです。
- ・他市の取組成果と比べると、児童生徒1人資料費と1人年間貸出数に相関が見えます。
- ・図書館協議会は、公共図書館からの支援と学校図書館自身の振興を答申しています。学校司書集団の専門性と十分な資料供給など、体制充実への今後の課題も見えます。

※昭和56年の国際障害者年から障がい者サービスを開始。対面朗読、録音点訳資料の制作、情報機器配備、自宅へ図書の宅配サービス実施。

※平成22年の図書館協議会の「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」では、中央図書館は学校教育の資料センターとして連携するべきとあるが課題もある。

1-3. 多摩市の図書館サービスの課題

(1) 現在の「本館」の問題点・・・(H22.図書館協議会の答申から)

多摩市の中央図書館機能の必要性和その整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ以下のように課題総括しています。

○これまでの経緯と進捗について：

これまで中央図書館の必要性については市民の要望が強く、平成2年度に「仮称多摩市立中央図書館基礎調査」、平成3年度に「多摩市における中央図書館建設に向けての構想案」、平成10年多摩市図書館協議会答申「多摩市立図書館の施設整備及び図書館サービスの在り方について」からも12年経過した。それにもかかわらず実現しなかったことは誠に残念。(中略)市の未来を展望して決断の時がきている。

○現在の「本館」の問題点、中央図書館設置が急務な理由。

現在、多摩市の中心館である図書館本館は、学校跡地を10年間の暫定施設として最小限の改修をしたのみであり中央図書館と呼ぶには様々な問題があります。以下要約。

- ・市民誰もが使える施設でなければならないが、坂の上、バス停から遠い、階段や坂を上がる必要があるなど障がい者、高齢者、幼い子ども連れで利用するのが難しい。
- ・駅から坂の上の敷地まで徒歩15分あり、車で来館する場合も駐車場が狭すぎる。
- ・延床面積は広いが、元教室の耐荷重のため書架を分散配置して移動距離が長い。
- ・EVが建物の端の位置にあり、障がい者や高齢者は2階の閲覧室を利用するのは不便。
- ・床の耐荷重の問題で蔵書収容力が低く、資料が各館に分散配置され本館利用が不便。
- ・3、4階利用書庫の元教室は冷暖房(温湿度管理)が無く、貴重な蔵書の劣化がある。

(2) 多摩市立図書館の抱える課題・・・(H28.読書活動振興計画から)

市民の読書活動を支える取り組みと「土台となる図書館の運営」についての副題がついた読書活動振興計画は、3項目で課題を俯瞰し、8つに課題の総括をしています。

・第1：多摩市立図書館の抱える課題

①急速に進む高齢化：団塊の世代が後期高齢者の年齢に達する「2025年問題」が言われている。短期間で多くの人口が流入したニュータウンは、国を上回る水準で高齢化が進行すると予測され、年金や医療、介護といった社会保障費の急激な増加にもつながる。安定的な行財政運営における大きな課題と、図書館経常費維持の展望が繋がっている。

②暫定活用も含めた施設の老朽化：多摩N.T.の初期入居から40年以上が経過して、公共施設の老朽化に対し、必要な維持管理と更新ともなう財政負担は重く予測された。平成25年11月「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」では図書館本館の移転再整備を、東寺方、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田図書館の廃止をという方針を一度提示した。平成28年「市民要望を受けて当面存続し検討」。市民と行政で今後の在り方研究を予定。

③資料費の確保と人件費：図書館費は約63,709万円(平成26年度)で内訳は資料費8%、運営経費18%、職員経費が74%(唐木田図書館窓口業務委託費の約3千万円を合わせて、職員経費79%)。資料費は5,049万円、多摩地域の人口10~20万人規模の13市と比較して5位。現状より資料費を増額確保するには、効果的効率的な図書館の運営が必要となる。専門性を持ちつつ職員構成の見直しを進めるなど人件費の構造改革をする必要がある。

④職員の先細り：市民のニーズを踏まえた図書館資料の組織化や図書館経営にあたる職員は、経験と知識が求められる。常勤職員が高齢化し定年を迎えていく中、常勤職員と嘱託職員の役割分担、職員集団としての専門性を維持・確保するための役割に応じた人材育成などのしくみづくりが必要となる。

⑤ICTの活用による新たな情報提供や業務効率化：電子書籍導入、貴重な地域資料のデジタルアーカイブ化など電子媒体の利用環境は十分整備されていない。また図書館システムの更新やインターネットの活用により、図書館利用環境の改善や業務の効率化を図ることは、サービスの改善や職員の働き方の課題解決にも関連する重要分野となる。

⑥書庫：書庫については、これまで学校跡地などに分散していたものを本館に集めることができたが、床の荷重の問題や空調など、持続可能な環境とはいえない。

⑦蔵書の適正管理：図書は以前からの課題であり、拠点館2館には不正持出し防止装置を設置し効果が見られる。しかし本館では、書架の見通し悪さもあり亡失対策は大きな課題となる。近年、ICタグを用いて自動貸出と組み合わせた取り組み例もある。また、水濡れは本の大敵であり、書き込みや汚損の事例もある。次の利用者のために、返却時に1冊1冊点検をしているが、負担の大きい作業となっている。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」
2, 5, より



図書館本館入口

※出典：平成28年5月
多摩市教育委員会による
「多摩市読書活動振興計画」
II 課題 より

⑧図書館の運営に対する指摘：唐木田図書館の窓口業務委託の状況から、市は教育委員会に対し、図書館の機能、運営方法等全般について抜本的な見直しが必要との見解を示し、今後の図書館運営についての考え方を示すよう求めた。また、多摩市議会は、平成23年度決算における事務事業評価において、現状維持による図書館行政の発展向上が考えにくいことや施設総量見直しの視点から、全図書館で同一均質のサービスを提供する必要性についても検討を要すること、『目指すべき図書館像』を明らかにし具体的な処方箋を描くべきこと、財源のみでなく人的資源も先細りの現実を直視し、公立図書館の質向上につながる最適サイズを考えるべきことなどの評価を行った。

- ・第2：国の基準等と比較した多摩市立図書館のサービス等の課題
- ・第3：とりまく状況や課題を踏まえた読書活動と多摩市立図書館の改善・向上

(3) 多摩市立図書館の現在の蔵書の特徴とその課題

全国的にも高い貸出実績と予約件数を維持してきた多摩市立図書館ではあるが、全市図書館に資料が分配配架される方式が、成長深化の壁である状況が想像できる。多摩市立図書館の蔵書を、カーリルというデータアプリを用いて、優秀な先進館である浦安と調布の図書館の蔵書構成と比較した調査研究を引用して述べてみたい。

○多摩市の図書館は資料費の厳しさに比べて多様な図書を購入しているが、それらは地域館拠点館に分散的に所蔵され、利用者は一図書館でアクセスできていない。○多摩市の図書館は複本購入を抑制し、多くのタイトル数を購入する傾向があるが、他市に比べ予約件数が多い背景には、ひとつの図書館でのアクセス困難がある。

①多摩市民がアクセスできる図書のタイトル数は比較的が多い。(カバー率15.9%)
(2015. 多摩市資料費4490万円. 1685件、浦安市8549万円. 2334件22. 1%、調布市6700万円. 1978件. 18. 7%)
②最大の永山図書館でも出版物の4.7%のタイトル数にしかアクセスできていない。
(カバー率 永山495件4. 7%、本館418件4. 0%、関戸401件3. 8%、

唐木田233件2. 2%、豊ヶ丘222件2. 1%、聖ヶ丘166件1. 6%、東寺方156件1. 5%)

③多摩市では本館より永山図書館の方が多くの本にアクセスできるが 4.7%と低い。
(2015年度 多摩永山495件 4. 7%、浦安市立中央館 2061件 19. 5%、調布市中央館 1807件. 17. 1%)

④最大の永山図書館でのアクセスできる全市比率は30%：(相対中央館アクセス率)
(2015年度 多摩永山495件29. 4%、浦安市立中央館 2061件 88. 3%、調布市6700万円1807件. 91. 3%)

⑤多摩市は複本が少なく市蔵書全体のタイトル数を重視している：(平均複本冊数)
(複本冊数 多摩市 1. 269冊、浦安市 1. 777冊、調布市 1. 868冊、)
浦安市調布市は中央図書館で自治体で購入する図書のほとんどを入れ、分館は複本を購入している。)

⑥多摩市は浦安市や調布市より予約リクエストが多い。(ひとつの図書館での充足)
(リクエスト数 多摩市 475. 7千件 100%、浦安市 435. 2千件 91. 5%、調布市 208. 0千件 43. 7%)

※多摩市立図書館の選書は、浦安市や調布市と比較して異なる特色・傾向にありそうだ。：(一致率)
(浦安を100%としたときの選書一致度 多摩市 55. 5%、調布市 76. 0%、)

これらの状態(多様な資料に一箇所アクセスできないという)の改善が最大の多摩市立図書館の課題であり、中央図書館整備の必要性和意義がここにあります。

(4) 図書館の課題に対するその他の市民意見の洗い出し

本構想では、図書館の課題を専門の眼で整理している左の二つの資料に加えて、
・平成19年. 多摩市民まちづくり討議会報告書：第1章討議の結果と市民からの提案
・平成23年. 多摩市立図書館の基本方針・運営方針：市民アンケートのご意見
・平成28年. 公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案：パブリックコメントから、市民利用者のご意見を洗い出しています。

基本構想の策定委員会と併行して、図書館に関わる市民グループや学校や行政のヒアリングを重ねて記録に留め、策定委員会での議論の材料にしてみました。これらの多様な方法で時間をかけて集められた図書館の課題に関わるご意見を、17の要素ごとのカードに分類と縦軸横軸の関係づけをして、マトリックス状に一覧表に並べたものが、次のページの「現況と課題の総覧チャート」です。

※大妻女子大学松本研究室がカーリルを使って、多摩市立図書館の蔵書を、浦安市や調布市と比較分析しています。

※カーリル：国内の6000図書館の蔵書検索が可能なサービス。

①国立国会図書館の2015年の書誌162, 283件から1/10のサンプルをとりISBNがついている10, 570件を、各館について所蔵調査。

③相対中央館アクセス率：市内の図書のうち中央館でアクセスできるものの比率。集中性特化性評価。

④予約件数が多くなる背景と考えられる。

⑤平均複本冊数：複本購入の程度(分館運営方針)。所蔵総冊数÷タイトル数

※チャート：図表のこと。航海に必要な海図など位置関係を示しつつ、全体像を俯瞰するベースマップともなる。

1-3. 多摩市の図書館サービスの課題

(5) 多摩市立図書館の全体像を説明する課題総覧チャート

現況と課題	資料世界 〈本・情報〉	図書館員 〈人・組織〉
分館 〈地域館〉 ・東寺方 ・豊ヶ丘 ・聖ヶ丘 ・唐木田	カルタ01/本・地域館 ・図書館蔵書規模は約4.2～5.8万冊、全て開架。 ▲全集ものの全巻が揃って棚にない。 ▲3万～5万冊分館の生活に対応した蔵書構成に徹底されず、リクエスト返却の結果の資料世界。 ▲近年、地域館の資料購入図書が減っていて、利用者は永山図書館利用に傾斜している。 ▲新聞のタイトル数は6。雑誌は60。 <今後の地域館への要望> ◎健康情報、乳幼児の絵本など資料に期待。 ◎行政ランチとしての資料収集に期待。 ◎新聞雑誌などの充実への期待。	カルタ02/人・地域館 ・図書館職員規模は5人～8人(唐木田9人)(常勤0～2人、嘱託等5～6人、唐木田委託9人)(職員1人年間貸出1.8～2万冊、唐木田1.4万冊) ▲唐木田は窓口業務委託、館長は正職を配置。 <今後の地域館への要望> ◎それぞれの地域館に相応しい資料構築への期待。 ◎必要な資料が手に取れるよう、地域館の職員が地域館の蔵書構成に責任を持つ体制が欲しい。 ◎小さい蔵書規模の分館の配架構成方針が必要。 ◎地域館にこそ専門性のある司書配置を。
分館 〈拠点館〉 ・関戸 ・永山	カルタ05/本・拠点館 ・図書館蔵書規模は約10万冊、全て開架。 ・新聞のタイトル数は関戸14永山18、雑誌のタイトル数は関戸約100永山約150。 ▲全集ものの全巻が揃って棚にない。 ▲開架室の成長の方向性、5年後の展望は。	カルタ06/人・拠点館 ・図書館職員規模は17人～20人(常勤6人、嘱託等11～14人の構成)(職員1人年間貸出2.1万冊～2.4万冊) ・障がい者サービスは、職員全員の交代制で対応されている。 ・点字資料の作成は、市民グループ作業による。
図書館 〈本館〉 ・現本館 ・専門的直接サービス ・資料群構築センター ・アウトリーチサービス	カルタ09/本・現本館 ・図書館蔵書規模は約34.8万冊。開架11万冊。 ▲新聞のタイトル数は9、拠点館より少ない。 ▲雑誌のタイトル数は100未満、拠点館以下。 ▲視聴覚資料は近年購入していない。 ▲専門書のリクエストには近隣市相互貸借で対応。 ▲全集ものの全巻が揃って棚にない。 ▲群書類従など基本図書が分散して本館に無い。 <今後の中央館への要望> ◎世界を体感できる豊かで深みあるコレクションを ◎資料収集方針をしっかり作ってほしい。 ◎土日閉館の行政資料が収蔵された中央館を。 ◎そこに行けば何でも調べられる図書館がよい。 ◎点訳音訳/電子資料/有料データベースを。 ◎安全な資料の保管体制を。(調温度、調湿、防火)	カルタ10/人・現本館 ・図書館職員規模は41人(常勤25人、嘱託等16人)(職員1人年間貸出0.96万冊) <今後の中央館への要望> ◎本館を中央館にして、課題解決型のサービスを。 ◎役立つことに気づく中央館の運営を。 ◎急激に進む高齢化に対応したサービス、高齢者に快適安心な施設の計画を。 ◎中央館が分館を充実させるよう支援するシステムを。 ◎職員組織が充実成長する合理的な職員体制を。 ◎図書館の長期ビジョン・全域奉仕を考える力。 ◎専門職が誇りをもって専門スキルを育めるように。
全域奉仕 図書館システム 〈ネットワーク〉 ・行政資料室 ・幼稚園保育園 ・(学校図書館支援) ・病院/老健施設/包括支援施設	カルタ13/本・ネットワーク ・渡邊茂男氏寄贈の「へなそらのへや」新設。 ・障害者サービスで資料の作成やデータベース共用進む。 ▲経年統計は、蔵書冊数は微減、資料購入費横ばい。 ▲図書に所在記号がなく返却館に置かれるシステム。 ▲関係付けた棚構成や棚表現が目指されていない。 ▲奉仕人口や館数に対する副本購入が無い。または出来ない。ベストセラー要望には20冊程度対応。 ▲副本が無く所在が不定でリクエストと物流が多い。 ▲文化財など多摩市の行政資料の表現が不十分。 <今後の図書館への要望> ◎レファレンス機能や働き盛り世代への情報強化を。 ◎学校図書館の資料数や資料費は、文科省の基準を。 ◎中央館が分館を充実させるように支援するシステムを。 ◎収書方針は分野分類に沿ったレベルを決めて行いたい。	カルタ14/人・ネットワーク ・図書館職員規模は109人(正職44人)(職員1人年間貸出1.59万冊) <今後の図書館への要望> ◎働き盛り世代に需要のある専門的資料の収集を。 ◎地域館に不十分な行政資料の収集と充実を。 ◎中央館が分館を充実させるように支援するシステムを。 ◎将来に外部委託化がされないよう計画的な有資格正規職員の採用と配置を。 ・学校図書館へは2回/日、調べ学習貸出の対応。 ◎学校図書館や学校司書の相談連携の図書館窓口を。 ◎学校と公共の司書の交流勤務研修や配置交換研究。 ◎学校図書館の資料支援相談、学校間連携、職員研修、など、公共図書館や図書館協議会との関係強化を。 ◎図書館協議会の活性化と削減された定数の復活を。(公募委員を増やして欲しい。)
	資料世界 〈世界表現性・地域性〉	図書館員 〈専門性〉

この度の基本構想で、既往資料やヒアリングから集められた図書館の現況と課題への意見です。

・現在の状況、▲現在の課題、◎変化を希望

図書館施設 〈場・環境〉	市民利用者 〈活動〉	マネジメント 〈運営〉
カルタ03/場・地域館 ・図書館床面積規模は約500㎡。(東寺方551.豊ヶ丘508.聖ヶ丘842.唐木田577㎡) ・地域に身近な図書館の魅力。児童生徒の居場所。 ・唐木田の喫茶コーナー、展示は人気がある。 ・お話し室は無いがしかたない、お話しコーナーはある。 ▲唐木田、聖ヶ丘以外の複合施設には老朽化の課題。 ▲高齢者や子どもには良い働き盛りの利用に不足。 ▲研修集会、展示の機能が無い。 ▲包括支援センター設置のために現図書館割愛に反対。 ▲現状の事務/裏方スペースは狭く、機能的でない。 ▲ティーンズ世代は忙しく図書館利用から離れる。 ◎地域コミュニティのひろばに。展示交流機能を ◎開館時間の弾力化を	カルタ04/活動・地域館 ・貸出冊数規模は9.2万冊～16.4万冊 ・利用者数はH12→H26で増減に格差あり。(東寺方132%.豊ヶ丘52%.聖ヶ丘72%.合計18.4万人) ・全ての地域館分館の貸出利用数は全体の30%。 ・豊ヶ丘は本館開設後の利用は半減したが依然多い。 ・職員のお話会、ボランティアのお話会が人気。 ・児童館や老人福祉館との連携ができる。 ◎高齢者や児童サービスを更に手厚くする必要。 ◎児童生徒が徒歩で使える地域館と学校の連携を。 ◎行動プログラムの更新で、存続となった地域館の将来像や再整備を、いっどう住民利用者と一緒に精査や検討をするのか予定を示して欲しい。	カルタ17/運営・経営 ▲唐木田図書館委託(6年)についての行政効果検証ができていない。 ◎休館日が増えても、新刊入荷が遅れても既にある良書がきちんとある地域館の存続をしてほしい。
カルタ07/場・拠点館 ・図書館床面積規模は約1000㎡。(関戸1045、永山984㎡) ・永山の喫茶コーナーは人気がある。 ・地域に近い図書館の魅力。児童生徒の居場所。 ・関戸の研修室は人気。 ・永山は医療機関に近く、障害者支援活動の拠点。 ・市民の展示交流機能を。 ▲お話し室(コーナーはある)、展示の機能が無い。 ▲永山は、資料スペース座席数ともに満杯状態。今後の成長の方向性をどうイメージするか。 ▲現状の事務/裏方スペースは狭く、機能的でない。	カルタ08/活動・拠点館 ・貸出冊数規模は35.3万冊～48.8万冊 ・利用者数はH12→H26で増減に格差あり。(関戸116%.永山87%.合計35.5万人) <今後の拠点館への要望> ◎中央館整備後の、永山図書館と関戸図書館の将来像を構想し、再構成と魅力化策を考える。	<今後の拠点館への要望> ◎永山図書館に夜間受け取り機能を。 ◎中央館が出来ても、障がい者奉仕の機能を全て移転しないで欲しい。 <今後の本館マネジメントへの展望> ◎現状職員体制の行政効率の評価から、適正再配置の研究を行い、建設準備室の人員確保研究が必要。 ◎中央館計画について配置可能人員と開館時間計画の条件研究が必要。 ◎全域図書館奉仕の主体的運営を、常勤職員再編で行う研究が必要。
カルタ11/場・現本館 ・10年間暫定施設として閉校の中学校を改修整備。 ・図書館床面積規模は約5480㎡を使用。(開架室860.閲覧室135.学習室102.事務室272) ・2階学習室でパソコンが使えるのがよい。 ▲空調不十分だが、学習室、閲覧室などゆったり。 ▲駐車場規模、書庫や開架室床の耐荷重の不足。 ◎本館に無い新中央館機能を(まち討議会意見)居心地のいい空間/集うことの価値/書庫機能/学習支援/相互学習拠点/資料充実/他施設連携。静粛閲覧席増とサロンの分離/ICT個人ブース/AV視聴環境/グループ活動室/駐車駐輪場の充実/バリアフリー化/障害者奉仕/BM復活/予約本受取拠点/サロン空間/IT情報発信/多世代交流/保育環境/ ◎自由に集まり、充実したIT環境の中央館を。	カルタ12/活動・現本館 ・本館の貸出冊数規模は永山に次いで38.9万冊。 ・利用者数はH12→H26で3倍増。(273%.13.5万人) ・赤ちゃん向けお話会など企画が人気有り。 ▲暫定利用施設のため、駅から徒歩15分、坂の上。 ▲バス停から遠く多様な利用者へのアクセスが悪い。 ▲弱者の車利用にも十分な駐車場が無い。 ▲校舎利用のため荷重分散で利用動線が長い。 ▲荷重制限で資料は分館に分散配置されて不便。 ▲3.4階の書庫は冷暖房が無く、保存に適さない。以上から早急な中央館整備の必要性が、図書館協議会から答申されている。 ▲駅前の永山拠点館より貸出利用が少ない。	・図書館の基本方針・運営方針を持つ。 ・読書活動振興計画(H28)を策定した。 ・公共施設の見直し方針と行動プログラム更新で今後の変更の方向が示される。 ・多摩市教育振興プランで学校図書館の施策が進んだ。 ▲H12→H26の経年統計で図書館費は、7.16→6.37億円。人件費委託費は、4.59→5.03億円。資料購入費は、9300→5050万円。職員数は、87人(常勤45)→99人(38) ▲人件費比率の高さ、若い専門職員の配置が難しいことが課題となる。正規職員組織の専門性の継続が課題。 ◎どこの館でも正規職員配置があり、同じサービスが直営で受けられるよう地域館利用者の期待あり。
カルタ15/場・ネットワーク ▲学校図書館を公共図書館の地域サービス拠点にするアイデアは、安全と授業カリキュラムで困難。 ▲学校図書館に新鮮な資料の充実をさせつつ、環境の魅力化への取り組みが、進んでいない。 ▲行政資料室は市役所第二庁舎に位置しているが、市の職員や議員の利用は盛んではない。(利用活性化のためのどんな取り組みがあるか) ▲行政資料室には以前、郷土資料が配架されていたが、蔵書構成の見直しで本館に集約された。 ▲資料室資料の副本が本館に常備されていない。(以前郷土資料展示が行政資料コーナーにあった)	カルタ16/活動・ネットワーク ○多摩市第五次総合計画/基本計画(施策の成果目標)では、H26年度市民一人当年貸出11.7冊を達成。 ○人口はH12→H26で、14.1万→14.8万人の微増。 ○登録者数・利用登録率41%(6万人)は好成績。 ○人口10～15万人都市中で貸出密度2位、予約1位)実利用者21%(3.1万人)、のべ貸出利用67.6万人。 ▲だが、利用者総数は14年間で減少傾向にある。 ▲年齢別では40代～70代。6歳から14歳が多い。 ▲5歳以下、15歳～20代の貸出利用が低調である。 ▲学校図書館は、全校に司書が配置され、公共図書館との連携など形が整いつつあるが、年間資料費が少なく、生徒児童の貸出密度が伸びていない。 ◎経年統計や他市統計から検証や研究が必要だろう。 ◎コミュニティの根幹、新中央館への交通アクセスの整備を。	
図書館施設 〈ひろば性〉	市民利用者 〈市民性〉	レジリエンス サステナビリティ 〈持続性〉

1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯

(1) これまで26年間にわたる多摩市の図書館政策研究

中央図書館やあらたな展開への期待と、公共施設の総量見直しへの対応の中で、多摩市の図書館政策の研究と市民への方針提示が、以下のように蓄積されました。これらには市民参画があり、市民独自の研究活動と発表も残されています。

- 平成2年12月： (図書館計画施設研究所)
『多摩市立中央図書館基礎調査 報告書』
1 多摩市の図書館サービスのあらまし
2 市民は図書館をどのように利用しているか
3 図書館に貸出登録をしていない市民に聞く
4 多摩市の図書館サービスの課題とサービス目標
5 中央図書館に求められるもの (開架資料36万冊)
- 平成3年3月：
『第三次多摩市総合計画 基本計画』
・図書館ネットワークの整備
・中央図書館の建設
・地区図書館の建設
- 平成4年1月： (多摩市立図書館)
『多摩市における中央図書館建設に向けての構想案 21世紀への図書館計画』
1 これからの図書館
2 中央図書館の役割・機能
3 中央図書館のサービス
4 中央図書館の資料 (開架40万冊、閉架60万冊)
5 建築計画 (ワンフロア4,500㎡)
6 管理運営
- 平成8年3月：
『第三次多摩市総合計画 21世紀に向かう新たなまちづくり』
・図書館ネットワークの整備
・中央図書館の建設
・地区図書館の建設
- 平成10年4月： (多摩市図書館協議会)
『多摩市立中央図書館の施設整備及び図書館サービスのあり方について (答申)』
1 中央図書館の必要性
2 役割と機能
3 中央図書館のサービス
4 施設・設備・規模 (面積10,000㎡以上、蔵書32万冊、書庫100万冊)
5 ふさわしい場所
6 建築
- 平成13年3月：
『第四次多摩市総合計画 基本計画』
・図書館ネットワークの充実
・地域図書館の整備
・中央図書館機能の整備
- 平成19年12月： (多摩市まちづくり討議会実行委員会)
『多摩市まちづくり討議会報告書』
1 今の図書館何が足りない？
2 どんなものを取り揃えましょう
3 こんな工夫で利用度アップ
4 多摩市に中央図書館は必要？
5 市民が求める多摩市の図書館・図書館サービス
(1) 運営方法 (2) 施設・設備 (3) 開館日時 (4) 新たなサービス要望
- 平成22年4月： (多摩市図書館協議会)
『多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について (答申)』
1 文化都市にふさわしい「本の館」を (総論)
2 現在の「本の館」の問題点
3 中央館はどこに
4 役割とサービス《100万冊規模の蔵書》
- 平成23年4月： (多摩市立図書館)
『多摩市立図書館の基本方針・運営方針について』
1 基本方針と運営方針、市民アンケートの概要と図書館の考え方
2 現在の「本の館」の問題点
- 平成24年2月： (多摩市教育委員会)
『第二次多摩市子どもの読書活動推進計画』
- 平成25年8月： (多摩市図書館協議会)
『多摩市立図書館の施設とサービスのあり方について (意見)』
※行動プログラムの協議への回答についての意見
1 施設のあり方について (開架30万冊、閉架50万冊、1万㎡規模)
2 サービスのあり方について
3 運営のあり方について
- 平成25年11月： (多摩市)
『多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム』
・4地域館の廃止と3館化構想 ※出典：平成28年5月 多摩市教育委員会による「多摩市読書活動振興計画」巻末資料2を総括し加筆して作成しています。
- 平成28年5月： (多摩市教育委員会)
『多摩市読書活動振興計画』
- 平成28年7月： (多摩市)
『多摩市公共施設の見直しと将来像』行動プログラム更新
・4地域館を当面存続し検討することと、本館再構築の方針
同秋 ・パブリックコメントの総括

多摩市立図書館本館再構築基本構想
第一章 多摩市民の図書館のいま



7館1室の多摩市の図書館

第二章 多摩市民のめざす図書館

2-1. 「知の地域創造」のための図書館 (基本方針と5つの運営方針)

2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館

2-3. 多摩N.T.再生まちづくりの担い手となる図書館

2-4. あたらしい多摩市立図書館への提言 (提言チャート)

※各頁の文章を補完する挿入写真は、活動のイメージをお伝えするための各地の図書館の風景です。